

御後絵 (琉球国王の肖像画) と東アジアの帝王像

— 国王の正面向きの意味を考える —



(左)『尚敬王御後絵』 (中)『尚真王御後絵』 (右)『尚貞王御後絵』 全て鎌倉芳太郎撮影、沖縄県立芸術大学付属図書・芸術資料館蔵

2025.

4.12_土

入場無料

14:00~16:00
(開場 13:30)

講師 平川 信幸 (教育普及担当学芸員)

会場 沖縄県立博物館・美術館
3階 講堂

受付 当日先着 (定員 200 名)

お問合せ 098-941-8200
〒900-0006
沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1

2024年3月、沖縄戦で消失した歴代国王の肖像画「御後絵」4点がアメリカで奇跡的に発見され、沖縄に戻ってきたというニュースがありました。

本講座では、戦前に撮影された10枚の御後絵と、中国・朝鮮・日本の帝王や天皇の肖像画を比較することで、その特徴を明らかにし正面向きの構図について深堀りします。

※駐車場の混雑が予想されますので、公共交通機関のご利用をお願いいたします。
※席数に限りがありますので、ご入場いただけない場合があります。予めご了承ください。
※会場内は空調の影響で寒くなる場合があります。

次回予告

2025. 5.10_土 14:00 ~ 16:00 (13:30 開場)

博物館学芸員講座 「海上の道」を考える

講師 山崎 真治 (人類学担当)